



戦前中国の風俗絵はがきの世界 (近藤恒弘氏 寄贈)

支那に於ける民衆風俗 第一輯

近藤 恒弘 (民間収集家)

中国の風俗絵はがきの収集のきっかけ

私は、1929年に中国の天津市で生まれ、終戦の翌年1946年に日本の愛知県に引き揚げて参りました。大学を卒業して日本の会社に勤務した後、台湾、中国で仕事をし、2002年に辞めて日本に帰り、天津に関する資料を収集するようになりました。その間、毎年天津日本中学校(旧制)の同窓会が行われ、同期生との交流を深めておりました。

天津の資料収集は、最初天津の絵はがきが主でしたが、その絵はがきの中に当時の中国の風俗を扱ったものもあり、風俗絵はがきも収集しては、と考えました。中国の風俗といっても地方により異なります。天津の場合は中国北部にありますので、当然中国北部(当時の日本人は「北支」と言いました)の風俗絵はがきとなりますが、中には私の記憶にない風俗もあります。また、東北地方(旧満州)の風俗は天津の風俗と似通ったところがあります。

さて、収集をした絵はがきの風俗と私が記憶しているものと異なることがあり、さらには、私の記憶の範囲では、絵はがきにはなかった風景もあって、どのようにすれば現在の人達に説明が出来るかが問題となります。例えば荷馬車ですが、私が直接聞いたことでは、荷馬車は荷を積んで満州から来て青海に行くのだと言っており、大体年に二往復するということでした。また田舎道は、勿論当時のことですから舗装はされておらず、車の轍の幅に二本の溝がほられているのですが、晴れの日には溝の中は黄砂の粉(小麦粉のような)でうまっていて、その深さは20～30センチほどで雨の日には田んぼの中を行くようです。このように私が経験したことのあるものは説明が出来るのですが、未経験のものは絵はがきの説明を使わざるを得ないと思います。

また、街で見かける物売りですが、当時でも運搬に色々な方法が使われ、絵はがきでは一輪車が多いのですが、籠に商品を入れたり、天秤、小型のリヤカー、三輪車、小型の荷車、さらには大型のリヤカーもあって、小さな店舗が街角に突然現れるという状態で、当時の状況は絵

はがきのみでは推察が難しいと思います。

当初は風俗を下記の分類で集め整理をしました。

(1)一般風俗—乞食、ラマ僧、僧侶、阿片吸引、冠婚葬祭、駅前風景、高踊り、武芸、麻雀、(2)運搬—馬車、牛車、一輪車、馬、驢馬、駱駝、駕籠、洋車、人力車、船、ジャンク、荷車、(3)芸人—楽団、胡弓、大道芸人、曲芸、猿回し、手品、流し、門付け、芝居小屋、芝居 京劇、高足踊り、俳優、(4)商売—食べ物売り(大きく分けて店を構えたものと行商)、そば、卵、一文菓子、焼き芋、湯で芋、山査売り、果物売り、駅での立ち売り、青果市場、湯売り、豆腐売り、落花生売り、肉饅頭売り、餅売り、魚売り、理髪、衣服、金物、靴修理、骨董店、食堂、料理店、料亭、(5)乗り物—人力車、馬車(荷車、客車)、牛車、駕籠、一輪車、(6)生活—各層における住居、(7)農家、(8)職業、(9)絵はがきセットになったもの。

しかし、分類が余りにも多く複雑であるのと、同一の写真でも発行所の異なっているもの、また時代が離れているのに同じ写真が使用されているものなどがあるので、結局は発行所・時代別としました。



図1 支那に於ける民衆風俗 第一輯
POPULAR CUSTOM OF CHINESE



図2 冠婚葬祭
お嫁入り……花嫁は轎子の中に
葬儀道中……白衣の後方柩車
お祭り……高脚子の舞

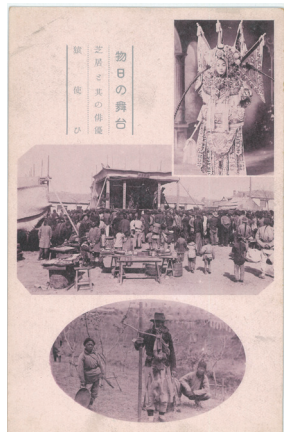


図3 物日の舞台
芝居と其の俳優
猿使ひ



図4 田舎の路
一輪車は人も運ばば荷物も運搬する
夏は日除けを風があれば帆を張って
花嫁の里歸りはこうして驢馬に乗って



図5 會心の技
街頭の武術
麻雀の遊び



図6 郵便はがき
CARTE POSTALE
青島新報社發行



図7 正月近し 山楂賣り
路傍の食べ物屋 泥人形賣り



図8 勤勞 木挽き 呉服行商人 靴直し



図9 農村の晝
石臼は驢馬に轆かせ
娘達は水溜に洗濯を
野菜には野良の井戸水を



図10 大陸氣分 小禽を受す
路傍の賣ト (中と左)



図11 街頭風影 床屋の露店
小爐匠は磁器硝子器の壊れを
器用に繼ぐ
倡們兒…杖と鉦の音を便りに
門つけて歩く悲しい辻音楽師



図12 遊藝
胡弓、蛇皮線、鉦鼓は男妓に
よつて藝妓はそれに合はせて
唄のみである
妓戸に於ける一名妓
盛り場のノゾキ

一輪車 (図4)

中国の華北地域の主な運搬手段は馬車が用いられたが、田舎の道で活躍するのは一輪車であった。
どんな細い道でも一輪車なら通行できたが、代わりにすべての力を腰で支えなければならず、埠頭などの荷役を担う苦力には過酷な労働を強いるものであった。帆をつけているのは風力を借りる仕掛けとして導入されたもので、市街地でキーキーという音を立てることから「泣き車」とも言われた。